

“届けよう、服のチカラ”プロジェクト 協力のお願い

富士中学校2年 実行委員会

私たち富士中学校2年生は、「トライやる・ウィーク」や総合的な学習（「SDGs」について）の一環として、“届けよう、服のチカラ”プロジェクトに参加することになりました。

このプロジェクトは、みなさんもよく知っている「UNIQLO」「GU」を展開している『ファーストリテイリング』がUNHCR（国連難民高等弁務官事務所）とともに取り組んでいる参加型学習プログラムです。これまでの累積で全国から5,817校、のべ61万人の子どもたちが参加しているそうです。今年も全国で1,000校の小学校、中学校、高校が参加するそうです。

1学期には「出前授業」で『難民とは？』や『世界中の難民の背景や状況』、『服の持つチカラ』、その力が難民支援につながることを学習しました。その上で「今の私たちにできること」を考え、このプロジェクトに参加することにしました。世界の難民やSDGsなど自分たちの周りにあるさまざまな問題を解決するために、難民の方、特に子どもたちに向けて、子ども服を届ける活動です。

現在、世界では1億2千万人余り（日本の人口とほぼ同じ人数）の難民が存在します。難民とは「自分の国を追われ、他の国に助けを求める人たちのこと」です。そして、私たちが一番ショックを受けたのは、その難民の約40%は18歳未満の子供たちだということです。

戦争や紛争など、何らかの事情で「今すぐに国外に逃げないといけない」となったとき、何を持って行きますか？ 私たちも「出前授業」の中で、何を持っていくか考えました。もちろん、ゆっくりと考える時間はありません。大きな荷物にすることもできません。その状況では、「お金」「スマホ」はすぐに出てきましたが、「服」はあまり出てきませんでした。

でも、「汚れても着替えがない」「お気に入りの服が手元にない」など、服がないと皆さんはどんな気持ちになりますか？ 服は命を守ったり、自分の気持ちや個性を表現するだけでなく、制服やユニフォームなど人と人との繋がりをつくるものでもあります。

今の私たちは、そんな状況を経験したことはありません。でも、世界中には日本の人口の約半数もの子どもたちが、そんな環境の中で生活しているのです。「出前授業」の動画で、自分の家で家族と平和に暮らしていた時のことを思い出して涙する少女がいました。その少女が、プロジェクトで届けられた洋服を着て、同じ難民の子どもたちと鏡の前で嬉しそうに笑顔になっている様子がありました。今まで知らなかった「服のチカラ」を感じました。そして、このプロジェクトに少しでもチカラになりたいと考えました。

そこで皆さんに子ども服の回収への協力をお願いします。

期間は9月10日～10月15日です。子ども服回収用のBOXを富士中学校、富士中校区の小学校、幼稚園に置かせていただくので、そこに入れてください。回収したものは、中学校で夏服、冬服、サイズごとに仕分けして倉庫に発送します。その後、ファーストリテイリングからUNHCRを通して難民キャンプの子どもたちに届けてもらいます。

***60センチ～160センチのサイズの子ども服を回収します。**

***夏服、冬服は問いませんが、下着や帽子、靴、ベルトなどの小物類は回収できません。**

また、迷彩柄やドクロマークや武器をイメージするような絵柄のものも回収できません。

***クリーニングの必要はありませんが、洗濯してから回収BOXに入れてください。**